

第9回福津市共働推進会議

「これからの郷づくりを考えよう」 ワークショップ


2023.7.14
福津市役所 地域コミュニティ課

(メモ)

福津市共働推進会議

“誰もが住みよい福津市にしていくために、共働のまちづくりをどのように進めたらいいか”を考えていく会議です。

【諮問内容】



① 「郷づくり基本構想」の見直しを中心とする郷づくり推進事業における共働のあり方について

② 「福津市みんなですすめるまちづくり基本条例」見直し必要性の検討

(令和6年3月答申予定)

答申の柱

① 交付金のあり方

② 拠点のあり方
(使い勝手)

③ 人材確保・育成

④ 市の関わり

⑤ その他

①～④のほかに重要なものは、「その他」項目としてまとめます。

本日のワークショップ

答申の柱ごとに課題解決のアイデアを
話し合ってみましょう

いただいたアイデアを参考にして、今後、
共働推進会議で話し合い、答申に反映して
いきます。

(メモ)

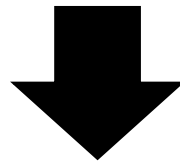
柱① 交付金のあり方

現状	現状から見えた問題点
交付金が使いづらい	余剰金の取扱い・会計処理・雇用経費等の制約が多い
自治会への予算配分が難しい	協議会に一括交付する交付金制度の運用が難しい
一人あたりの交付金の地域格差が大きい	算定基準の検証がされていない
協議会の努力で得た収入が余剰金に合算される	独力で得た収入を活用できる仕組みがない

柱① 交付金のあり方

目指す方向性（案）

- ・ 使い方の柔軟性を高めることを目指す。
- ・ 協議会と自治会の納得が得られる配分をする。
- ・ 地域の状況を反映した算定基準を目指す。



課題解決のアイデア

- ・ ○○○○○○
- ・ □□□□□

（本日のワークショップで、柱ごとのアイデアを話し合っていきます）

柱② 拠点のあり方

現状	現状から見えた問題点
センターの利便性が低い	開館日・申込方法・貸出条件・支払い方法の制約がある
センターの使い勝手が悪い	利用上の禁止事項が多く、活動が制限される
センターの活動スペースが足りない	地域によって施設環境に差がある



目指す方向性（案）

- ・ 利用条件を緩和して、より多くの人たちに利用してもらえる拠点を目指す。
- ・ 他の公共施設も視野に入れた運用を考える。

(メモ)

柱③ 人財育成・確保

現状	現状から見えた問題点
メンバーの高齢化と固定化が進んでいる	次代を担う後継者が育っていない
現役世代や子育て世代が活動者として参画してくれない	活動者に対する負担感がある
企画運営できる人材が少ない	外部からの視点を取り込む機会が少ない

目指す方向性（案）



- ・ 多様な世代・属性・立場の人たちが郷づくりに参画できる機会や仕組みをつくる。
- ・ 新たな活動者の負担軽減につながる方法を考える。
- ・ 中間支援できる組織との連携を支援する。

(メモ)

柱④ 市の関わり

現状	現状から見えた問題点
市が地域に求める役割がはっきりしない	市と地域の位置づけと役割に不明瞭な点がある
地域との対話の機会が限定的	日頃の対話の機会が少なく、地域の現状把握が不十分である
地域担当職員の位置づけが分かりにくい	地域担当職員の役割に不明瞭な点がある
情報や助言が不足している	タイムリーな情報提供や助言が不足している

目指す方向性（案）



- ・市の方針を明確にして、お互いが取組みやすくする。
- ・地域とのコミュニケーションを増やし、地域の状況に寄り添った支援をする。

(メモ)

柱⑤ その他

現状	現状から見えた問題点
1) 郷づくりの認知度が低い	郷づくりのことが十分に伝わっていない
2) 自治会加入者が減少している	自治会の必要性が理解されていない 自治会への負担感がある
3) 自主財源を稼ぐ仕組みがない	自主財源の活用や配分をする仕組みがない

目指す方向性（案）



- 1) 現在の取組みに加えて、新たな情報発信の方法を模索する。
- 2) 自治会の取組みを支援しながら、市としても加入促進方法を見直したり情報提供を行う。
- 3) 自主財源を得るにあたり、交付金制度を整理する。

(メモ)

諮問①の審議予定

日程	審議内容	代表者会議
7月14日（金）	ワークショップ	
9月22日（金）	中間報告案の作成	
		中間報告案の確認
	中間報告	
	中間報告後の細部検討	
3月	答申	

(メモ)